



「日本の食卓 郷土のおみそ汁缶」は、現在4缶を発売。すや亀本店や「いつもこころは太陽と」のWebショップで購入できる

おみそ汁缶の開発のきっかけは、弓田さんが東京から長野に移住してきた4年前に遡ります。いつかは住みたいと憧れの長野に引っ越して来たものの、慣れない土地と新しいビジネスへの挑戦も重なり、思い悩んでいた弓田さんは、ふらっと立ち寄った食事処で「一杯のお味噌汁に出会います。」  
 「一口飲んだときにポロポロっと涙が出てきて…。これは落ち込んでいた場合じゃないな、私も頑張ろうという気持ち湧いてきたんです」。この味噌汁を使って何か一緒に仕事ができるか、と、弓田さんが飛び込みで話を聞いてもらったのが、食事処も営む老舗味噌蔵のすや亀本店でした。  
 また、その年の秋には、台風19号による千曲川の堤防決壊を体験。東京とつながり支援物資を現地に送る中継をしているなかで、「缶詰だったら水がない、火がない状態でも食べられる。一杯のお味噌汁があれば、心まで温めてあげられる」と、おみそ汁缶のアイデアが生まれたのだそうです。  
 味噌は、日本の食卓になくてはならない伝統食です。一方、その消費量は40年前に比

べて2分の1以下になっていることも知りまされた。  
 「お味噌で人を元気にしたい。そして、この素晴らしい食文化を若い世代に継承していきたい」。それが、弓田さんが思い描く未来のビジョンとなりました。  
 弓田さんが文化継承の思いとともに、解決したいと考えているのが若者の自殺です。現在10代、20代、30代の死因のトップ3に入っているのが自殺で、社会的な問題となっています。弓田さんは、自身の幼少期の体験から、自殺を防ぐには食卓の温もりが大事だと考えています。  
 「例えば学校でいじめを受けている時、家族と話を交わすだけでも、いじめを受け流す力が自然と湧いてくると思うんです。日常の何気ない食は、子どもたちを救うキーワードになるのではないのでしょうか。それは医師を志し、さまざまな経験を積んだ後に「メスを持たない医療」を目指し実践してきた弓田さんならではの新しい取り組みだといえるでしょう。食で人を元気にしたいという思いは、社名にも表われています。どん底の時こそ人に寄り添える人間でありたいと、同じように会社もお客様や社会にとって太陽のように温かい場でありたいと考え、社名を決めたそうです。おみそ汁缶を開発したことで、県内外の異業種の方々との新しい出会いも生まれました。

PROFILE

1980年千葉県成田市生まれ。大学卒業後、一般企業に就職。26歳でハイパー会社の代表に就き、月400万円の赤字会社を1年で黒字に転換した実績を持つ。30歳で幼少期の夢であった医師を志すが、自らの経験をもとに「メスを持たない医療」の可能性を探求し、健康食品業界へ。2019年、長野市に移住。味噌汁製品の開発製造に携わりながら、日本の伝統的な食文化を継承する活動に邁進している。

DATA

株式会社いつもこころは太陽と  
 [創業] 2019年7月2日  
 [業務内容] 各種食料品小売業、各種食品卸売業  
 [所在地] 長野市北石堂町1175-6-801  
 [URL] <https://itsukoko.com>  
 [Instagram] misomeal



郷土の具材にこだわったおみそ汁缶は、県と県をつなぐ商品として47都道府県をシリーズ化する

「二人でできることは限られているので、仲間となった方々の力を借りながら、尊敬しながら、新たな事業にも取り組んでいきたい。今の会社の土台は私の代でつくり、二代で終わらせることなく、1000年続く企業にするのが目標です」。

食卓の温もりが若者を救う

おみそ汁で人を元気に 伝統的な食文化を未来へ継承

輝くあの人にインタビュー

人きらっとひかる

ゆみ た のぞみ  
 弓田 望さん

株式会社いつもこころは太陽と 代表取締役



「日本の食卓 郷土のおみそ汁缶」は、現在「長野県×信州みそ」「富山県×信州みそ」「愛媛県×信州みそ」「兵庫県×信州みそ」の4缶が発売されており、今後も全国47都道府県郷土汁シリーズとして、ふるさとの具材にこだわった商品を開発していく予定です。ちなみに、「長野県×信州みそ」には、サバタケがたっぷり使われています。サバタケ汁といえば、北信地方で昔から愛されてきた家庭の味。缶の蓋を開けると、お味噌汁に溶け込んだサバタケのいい香りが…。そのまま食べてよし、お椀に盛ってレンジで温めてもよし。災害時に備えておきたい非常食として開発された商品ですが、「こういう商品がほしかった」「見た目も可愛い」と、お土産としての需要も伸びています。

非常食として開発されたおみそ汁缶

「東京から長野に移住したその年に一杯のお味噌汁と出会い、感動を受けた弓田望さん。その経験がきっかけとなり、開発されたのが「日本の食卓 郷土のおみそ汁缶」です。一杯のお味噌汁から食文化の継承へ、さらに子どもたちの自殺の課題解決へと、さまざまな取り組みを展開しています。

一杯のお味噌汁で人を元気にしたい